

部局名

農学部 獣医学科

担当:佐藤 裕之



テーマ

MRIで見る動物の脳・脊髄



MRI と聞いて、その原理を詳しく説明できる方は多くないと思いますが、非常に優れた診断能力をもった画像機器であるという認識はお持ちではないでしょうか。実は、思ったよりも多くの利用法があり、また大きな可能性を秘めた画像診断技術なのです。それを動物に応用しない手はありません。

「のうがく図鑑」本編にはここにお示しした以外にも最新の研究結果などを掲載しています。ぜひ覗いてみて下さい。



詳細内容はQRコードから確認できます

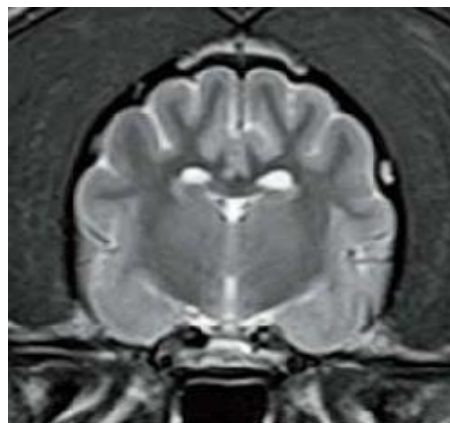
のうがく図鑑: <https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/books/book-vet/post-41.html>



宮崎大学で稼働しているMRI 装置

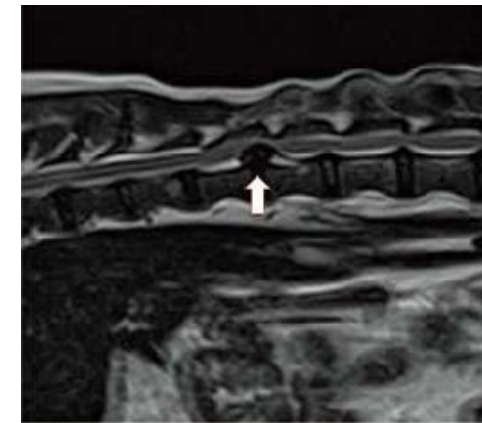
附属動物病院の診療や研究に活躍しています。医療用と同型機で、臨床機器としては最高クラスの磁場強度を有し動物の神経系も高解像度に描出することができます。

(一般に磁場強度が高いほど画像がきれい)



附属動物病院に来院した犬の脳MRI 画像

硬く厚い頭蓋骨に囲まれた脳MRI を用いれば、詳細な構造まで調べることができます。特に大きな異常は見つかりませんでした。



椎間板ヘルニアの犬のMRI 画像

矢印部分で逸脱した椎間板内容物(黒い塊のように見える)が長く伸びる脊髄の一部を圧迫している様子が分かります。